



みちくさ

2016. 9. 5 No. 29

木組みの心

昭和の時代に、法隆寺の解体修理や薬師寺の金堂の再建をした宮大工で、西岡常一さんという人がいます。この人が残した言葉に、心を動かされるものがあります。それはいずれも、同じ宮大工であった祖父から口伝（くでん）として伝わったものだということです。

『木は生育の方位のままに使い』

木を使う時には、その木が育った方位のままに、そして中腹から峠までに生えている木は、構造材として使いと教えています。山の南側に育った木は、枝をどんどん伸ばすので、木材になったときに節ができます。そういう木はそのまま建物の南側の柱に使うようにする。そして山の中腹よりも高い場所に育った木は、日当たりはいいが風雨にさらされている環境で育つので、その分強い木になるから、柱や梁になる構造材に適しているということです。室町時代に節のない柱ばかりで塔を建てたところ、耐用年数が飛鳥時代のものと比べて半分になったそうです。



『堂塔の木組みは寸法で組まず木の癖で組め』

木には癖があります。その木の生えている場所によって、ある木は左にねじれてしまう性質もっています。もちろん反対に右にねじれてしまう木もあるでしょう。そんな木を合わせて使うことで、部材同士で癖を封じて建物のゆがみを防ぐそうです。ねじれ方が逆の木同士を合わせると、これ以上の強度はないだろうという位、ぴたっとねじれが収まり、素晴らしい構造材になるそうです。木の癖を知らずに片方にねじれる木ばかりを使うと、建物になってからどうなるのだろうと不安になりますね。

このように、遠く飛鳥時代から宮大工の知恵として伝わっている口伝ですが、なるほどと納得させられることが多いし、それが妙に教育の現場にも当てはまることだったりすると考えさせられます。まさに「適材適所」という言葉の通りですね。「ある子どもの短所は、考え方によっては長所にもなる。その子のよさを伸ばしてこそ、教育の神髄であろう・・・」と、飛鳥人から言われそうです。

地域で規範意識を育てよう

夏休みに入る頃から、片平学区では町内会ごとにお祭りが開催されました。昔から続いていたりと、町内で子どもたちのために大人たちが支えていたり、どこの町内のお祭りも、素晴らしいものでした。市内どこの町内でもできることではないので、こういう地域で育っている子どもたちはうらやましいと思います。

昔、教頭をしていたとき、このようなことがありました。夕方、校庭に断りも無く入ってきた若者たちがいて、サッカーを始めました。不審者対策のために校門を閉めるように指導を受けていた時期のことです。少々怖かったのですが、学校管理者として立ち退くように注意しました。その際、「校地の利用は許可制になっているので、きちんと断ってからでないとは使用はできません」と話すと、文句を言いたそうな顔をして帰って行きました。

数日後、再びその集団がやってきました。「またかよ」と思いましたが、今度はきちんと代表者らしき青年（といっても金髪でヤンキー風）が職員室まで来て、「運動をしたいので時間を決めて校庭を貸して欲しい」と申し出ました。なんだ、この若者たちも話せば分かるのではないかと、その時はちょっぴり報われた気持ちになりました。

「地域ぐるみで・・・」という言われ方をしますが、やはり地域に居る私たち大人が、地域の子どもたちの規範意識を育てていかなければならないのだろうと痛感します。一方で、知らない子に注意すると口答えされるから嫌だという保護者の声も時々聞きます。でも見て見ぬふりをしていては、残念ながらどんどん子どもたちの規範意識が低くなってしまわないかと心配です。

今私が住んでいる地域は、仙台市西部でのんびりした地域です。散歩していると、ここに住んでいる子どもたちがよく挨拶をしてくれます。もちろん全く知らない子どもたちです。小学生だけではなく中学生も同様なのです。そこの小学校の教頭先生は、昔ご一緒したことのある先生だったので、お会いした際に、子どもたちの挨拶がいいことをお伝えしました。そうしたら、学校の中ではあまり挨拶もよくないということで、指導をしたばかりだったとのこと。一地域住民の声として紹介し、子どもたちを褒めてあげてくださいと伝えました。しっかりと朝夕の挨拶を交わし、まずは顔の見える関係づくりから始めるのが大事なのだと思います。



昔はどこの町内にも、口のうるさい、怖いおじさんやおばさんがいたものです。よそのブロック塀の上に上がっては注意され、かくれんぼするのに勝手に人の屋敷の中に入っては怒られと、思い出してみると、いろいろありました。その時は反発する気持ちもありましたが、大人になってみると、自分が悪かったなと猛省している次第です。親や先生に注意されるよりも、地域の大人から指摘されると、子どもには大きいと思います。どうぞ、片平の子どもたちには、注意するところは注意してもらい、みんなで見守っていく地域にして欲しいと思います。

町内やPTA単位でも、子どもたちのために様々な活動を展開していただいております。自分の子どもだけでなく、全部片平の子どもということで、駄目なときは駄目と言えるような雰囲気作りに、学校もこれから努めていきたいと思っています。

